

## 会議出席報告書

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第25条第3項の規定に基づき、下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1. 会議概要

- 1) 会議の名称 (和文) グローバルヤングサイエンティストアカデミー  
(欧文) Global Young Scientist Academy
- 2) 会期 平成22年2月14日から22年2月16日まで (3日間)
- 3) 会議出席者名 竹村 仁美、中村 征樹、駒井 章治、田中 由浩
- 4) 会議開催地 ベルリン (ドイツ)
- 5) 参加状況 (参加国数、参加者数、日本人参加者) 27カ国、52名、5名
- 6) 会議内容

#### ・ 日程及び会議の議題

2月14日 (日) ヤングサイエンティストのためのオープニングセッション (ヤングサイエンティストのみに開放)

- 14:00 開会の辞 (ティルマン・ブリュック)
- 14:15 アイスブレイク (グレゴリー・ワイス)
- 15:00 会議の意義づけの時間  
全体の目標と任務の要約 (グレゴリー・ワイス/ティルマン・ブリュック)  
参加者に対する主要な課題の描写 (運営委員会メンバー)
- 16:00 5グループに分かれての小グループワーク (運営委員会メンバーが各グループ内に2名助言者として入る)
- A What activities?: Examples of long term goals and proposals
  - B What?: Constitution and organization
  - C How?: Sources of funding
  - D Who?: Election of members – especially principles and process
  - E What next?: First actions and game plan – picking from Dalian and Berlin
- 17:00~18:30 各グループからの報告
- 21:00 非公式会合及び新しい問題に対する各グループの調整

2月15日 (月) ヤングアカデミーの設立 (すべてに開放)

モーニングセッション: 得られた教訓

- 9:30 開会の辞 (ティルマン・ブリュック)
- 9:45 ナショナルヤングアカデミーの役割、資金、経験についての展望  
Die Junge Akademie (Tilman Brück)

Leopoldina – National Academy of Sciences (Jörg Hacker)  
Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften (Günter Stock)  
Volkswagen Foundation (Thomas Brunotte)

11:30~13:00 グローバルヤングアカデミーの支援についての展望

IAP (Professor Howard Alper)

All European Akademies (Maite M. Aldeya)

アウトリーチの事例：タイ (Nitsara Karoonuthaisiri)

アフタヌーンセッション：今後について

14:00~15:00 地域ごとの話し合い（ヤングアカデミー及びグローバルヤングアカデミーの創設に当たっての地域的課題）

アフリカ・中東

アメリカ

アジア・オセアニア

ヨーロッパ

15:00~16:00 討論

16:30~17:30 グループディスカッション

17:30~18:30 最終全体会議及び会議の要約

18:30 形式的手続の終了

2月16日（火） GYAの設立（ヤングサイエンティストのみに開放）

9:00 三日目の目標の要約、検討課題についての合意、選挙管理委員会の設置、共同議長及び執行委員会委員の選挙への指名・立候補

9:30~10:30 グループディスカッション

10:30~11:00 全体会議及び討論

11:30 グローバルヤングアカデミー（GYA）創設のための選挙手続について

14:00 共同議長及び執行委員会委員の選挙

14:30~15:30 最終グループディスカッション

15:30 閉会の辞（ティルマン・ブリュック）

・主な審議内容・成果等

1) GYA（グローバルヤングアカデミー）の創設：今回の国際ワークショップは、Global Young Scientist Academy (GYSA) の設立と、各国での若手アカデミー設立推進とを目的として開催され、当初の目的どおり、GYA（グローバルヤングアカデミー）という組織が創設されるにいたった。なお、組織の名称について、当初、グローバルヤングサイエンティストアカデミー（GYSA）

との名称を用いる予定が、ワークショップ参加者による慎重な審議及び投票の結果、「グローバルヤングアカデミー」との名称に決定した。「サイエンティスト (scientist)」という用語を通常の意味で用いると、おそらく自然科学以外の一定の学問領域の研究者に違和感を覚えさせるのではないかという懸念が存在したことを理由とする。

2) GYAの共同議長及び執行委員会の創設：GYAの創設に当たり、GYAの初期運営メンバーとして重要な役割を担うことになる共同議長及び執行委員会の委員が選挙によって選出された。共同議長及び執行委員会の委員の選出・構成に当たっては、IAPの基準に準じて、発展途上国と先進国との地理的配分に十分な配慮がなされることとなった。

共同議長 発展途上国 Nitsara Karoonuthaisiri (タイ)  
先進国 Gregory Weiss (アメリカ合衆国)

執行委員会 発展途上国 Amin Amal (エジプト)  
Kassymkhan Kapparov (カザフスタン)  
Bernard Slippers (南アフリカ)  
Paul Nampala (ウガンダ)  
  
先進国 James Richard Tickner (オーストラリア)  
Rees Kassen (カナダ)  
Paula Kivimaa (フィンランド)  
Tilman Brück (ドイツ)  
Yael Hanein (イスラエル)

3) 各国での若手アカデミー設立推進：今回の国際ワークショップでは、GYAの創設をめぐる議論に大部分の時間をとられて、各国における若手アカデミー設立の課題について十分な議論を行えたとは評価しがたい。ただし、今回のワークショップ参加メンバーで早急に若手アカデミー設立のためのBlueprintを作成し、各国の若手アカデミー設立を促進することで合意した。Blueprintには以下の内容が含まれる：①国内若手アカデミーの設置をIAPが支援していること、②国内若手アカデミー設置の正当化根拠、③国内若手アカデミーの創設、④国内若手アカデミーの活動、⑤国内若手アカデミーの予想される成果、⑥国内若手アカデミーの成功の指標、⑦国内若手アカデミーの原則の提案、⑧国内若手アカデミーの規程の提案。Blueprintについては、国際ワークショップ終了直後に有志で分担した作業が開始され、2-3週間ほどで草案としての形ができあがった。政府や各国の学術会議(アカデミー)への提案書も含まれており、今後このBlueprintの活用が期待されよう。

・ 会議において日本が果たした役割：今回、日本人は全体の参加者中一割を占めており、大きな存在感を発揮した。また、会議中の日本及び日本人参加者への注目も高く、司会者

から特に日本人参加者に対して発言が求められる場面も見られた。ただし、今回の会議自体が組織の創設を目的としたものであり、今回の地球規模の若手科学者の組織の創設に日本が関与できた意義は大きいものの、むしろこの組織の今後の活動の中で日本がどのような役割を果たしていくかが課題となろう。

## 2. 会議の様相

28カ国の若手研究者が本国際ワークショップに参加し、若手科学者・若手研究者の地球規模の学術組織となるグローバルヤングアカデミー (GYA) を立ち上げた意義は大きい。それら研究者は、自然科学、社会科学の様々な分野から集っており、非常に学際的な組織であることも特徴となっている。GYAへの国際的関心は非常に高く、IAPからHoward Alper 共同議長が参加していた。本ワークショップのスポンサーは、IAPの他、国内若手アカデミーの先駆者であるドイツの若手アカデミー (Die Junge Akademie)、ドイツの学術会議であるレオポルディーナ (Leopoldina)、アルフリート・クルップ・フォン・ポーレン・ハルバッハ財団 (Alfried Krupp von Bohlen und Halbach-Stiftung) であった。

GYAは、(1) 国際性、(2) 独立性、(3) 科学を基盤とする、(4) 卓越性、(5) 影響力を主要な原則とする。今回のGYA創設にあたってのワークショップで、中国、フランスなど一部大国の参加者を欠いていたことが残念であったと評価される。日本からは、科学技術社会論、生物学・神経科学、ロボット工学、国際法学を専門とする学際的なメンバーを派遣したことで、国際的に重要な問題に対して学際的なアプローチを試みるために若手研究者の学際交流を深めるという組織の目的に貢献したといえる。

上述の若手研究者の学際交流の目的のほか、GYAの主な目的は、(1) 政策、メディア、国際問題への関与、国内若手アカデミーを育成することで若手科学者の声を表明する、(2) 若者のキャリアの選択として科学を推進する、(3) 発展途上国と先進国との格差を狭めていく、(4) 国際的に重要な問題への刷新的な解決方法の発展を奨励する、(5) その他若手科学者に関わることでGYAが推進していこうと決定したものとなっている。GYAの目的を推進するに当たっての当面の課題や現実の問題について、今回のワークショップでは議論がし尽くせなかった感がある。今回、GYAの設立メンバーのほぼ全員が世界的SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) のGYAのためのグループへ参加することとなった。これを通じて、今後もGYAや国内若手アカデミーの設置における課題を議論すべく、GYA設立メンバー相互のコミュニケーションを継続していくことが期待されている。

本会議では、各国内の若手アカデミーの設置へ向けた課題について十分な検討時間が得られなかった。しかしながら、国内若手アカデミーの成功事例であるドイツ、オランダの若手アカデミーの会員が、GYAの創設に関与し、積極的に発言していたことは印象的であった。GYA創設の意義について、今回の会議での話し合いを通じて、GYA及び国内若手アカデミーの存在意義が徐々に明らかとなった。国内に若手アカデミーを持たない我が国にあっては、日本人参加者には特に海外の若手アカデミーの意義や内容について学ぶところ

が多かった。また、GYAの設置が国内若手アカデミーの創設を奨励するものであり、今後、各国での国内アカデミーへの設置に向け、GYAが牽引力を発揮することが期待される。

今回参加したメンバーは、GYAの創設メンバーとして、今後二年間、GYAの運営に携わることになる予定である。

次回開催予定 未定